防除情報

トマトキバガの発生にご注意を！

令和８年４月　盛岡農業改良普及センター

植物防疫法で侵入警戒有害動植物に指定されている
「トマトキバガ」の越冬・初発が確認されています。

発生が疑われた場合は普及センターへご連絡をお願い致します。
育苗期、定植直後に食害されると被害が大きくなります。
早期発見・早期防除に努めましょう！

■　トマトキバガとは？

- 南米大陸が原産で、国内では令和３年に初めて確認されている。
- 成虫は夜行性で日中は葉の間に隠れていることが多い。
- １匹のメスが約 300 個の卵を産み、卵から成虫になるまでの期間が 20～30 日程度と短いため、ひとたび発生すると瞬く間に被害を拡大させる。

■　管内の発生状況

- 昨年発生し、ハウス内で越冬したと思われる事例が確認されている。
- ハウスにトマト・ミニトマトがない場合（育苗・定植前）でも、トマトキバガの発生が見られている。
- 昨年、県内のトマト育苗施設や本圃で葉や果実、生長点の食害が 14 事例確認されている。**発見が遅れたり防除が手薄になったりした場合に被害が拡大した事例がある。**
- 令和８年４月１日時点、管内（玉山）でトマトキバガ２匹の誘殺を確認。

図１　トマトキバガ多発圃場の様子

■　トマトでの被害

・　幼虫は葉肉内を食害し、潜葉痕を生じ、潜葉痕の内部に暗褐色の虫糞が溜まる（図２）。
・　果実にも食入し、商品価値を著しく低下させる（図３）。
・　幼虫は葉と果実、果実同士、果実と資材が接する部分などの隙間を好んで移動・食害する。果実とへたの隙間に潜入している場合も多く、見過ごしやすいので注意が必要。

図２　葉の被害状況
（左：初期被害（矢印）、右：被害進行）

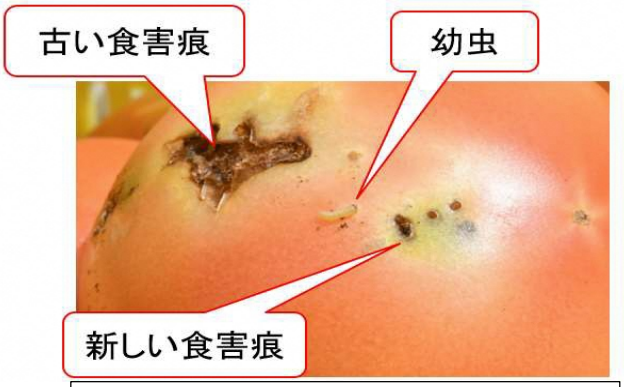

図３　果実表面の被害痕

■　防除対策

１　薬剤散布

・　**トマトキバガは発生初期の防除がとても重要**となる。**発生や被害が見られた場合、被害葉、被害果実を摘み取り、埋設し、直ちに登録農薬を散布する。**
・　幼虫は葉や果実の中にもぐり込み薬剤がかかりにくいため、何度か繰り返し農薬を散布する。

作物名	薬剤名	RAC コード	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の使用回数
トマト ミニトマト	プリロッソ粒剤オメガ	28	育苗期後半～定植時	２g/株	株元散布	１回
	アファーム乳剤	６	収穫前日まで	2000 倍	散布	５回以内

・　本種は世代交代が早く、海外では薬剤抵抗性の発達が報告されていることから、約 30 日を基本単位とし、その間に同じ系統（RAC コード）の薬剤を使用しないこと。

２　耕種的防除、被害後の処分

・　幼虫や卵の耕種的防除のため、摘葉及び整枝を適切に遅れずに行う。
・　圃場周辺のナス科雑草は越冬場所になる可能性があるため、除草に努める。
・　残さは寄主植物となるため、栽培終了後速やかに処分する。**残さ及び被害果は、土中深くに埋設するか、ビニル袋等に十分な期間密閉したのち適切に廃棄**する。

３　物理的防除

・　ハウス入口や開口部にネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。

■　トマトキバガに関するお問い合わせ先：盛岡農業改良普及センター（☎:019-629-6730）

【資料利用上の注意】
- この資料は、令和８年４月２日失効現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- 農薬は使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用してください。
- 技術情報等の詳細はいわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。
  https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html